

旭竜助け合い隊



インタビュー 代表者：八代 武利

旭竜学区情報	世帯数	2,276 世帯	人口	4,094 人	高齢化率	37.0%
--------	-----	----------	----	---------	------	-------

■活動のきっかけ

旭竜学区は岡山市中区で高齢化率が一番高い学区です。福祉を専門とする民生委員・児童委員の助け合い活動は歴史もあり活発ですが、その活動を補完し、さらに幸せに暮らせる支えあい助け合いの精神を地域に根付かせ、地域の支え合いの輪をもっと広げたいとの思いから、平成30年11月に“旭竜学区支え合い推進協議会”が発足しました。

平成31年2月には、学区内の65歳以上の世帯を対象にどのようなことが必要とされているのかを把握するためアンケート調査を実施しました。

その結果、「庭の手入れや買い物に困っている」という意見があり、また「困っている人を助きたい」との回答もありました。これらの結果を踏まえて、令和2年7月に“旭竜助け合い隊”を創設し、令和2年9月より活動を開始しました。

■活動内容

【困りごと支援】

病院の付き添いや買い物、ごみ出しや家事手伝いなどの日常生活の困りごとを、旭竜助け合い隊に登録しているサポーターがお手伝いします。

【旭竜学区支え合い推進協議会の開催】

サポーターの活動状況や依頼内容への対応状況、活動をしていく中で課題となっていることなどについて共有するため、旭竜学区支え合い推進協議会を開催しています。

■活動のながれ

- ①支援希望者からコーディネーターに依頼します。
- ②コーディネーターが依頼内容を確認し、サポーターへ連絡し調整を行います。
- ③サポーターが支援希望者のところへお手伝いに伺います。

【保存版】
令和2年9月1日
スタート

困りごとサポート

旭竜助け合い隊

日常の困りごとを支援します

旭竜学区にお住まいで、上記のような日常生活の困りごとを抱えている方なら、どなたでもご利用できます。

旭竜助け合い隊の仕組み

- ①支援希望者からの依頼
- ②コーディネーターが日時の調整
- ③サポーターがお手伝い

■活動の効果

令和2年9月～令和3年3月末までの活動実績

活動内容	件数
病院付き添い	1
お話し相手	2
買い物（同行・代行）	7
ごみ出し	91
草取り	7
庭木の剪定	1
家事手伝い	10
庭の片付け	2
介護相談	1
合計	122

■工夫していること

地域の支え合いの輪を広めるためには、旭竜助け合い隊の活動を広く知ってもらうことが必要です。活動開始前（令和2年8月）にはチラシを作成し、全戸に配布しました。現在は、より身近な活動として知ってもらうために、旭竜助け合い隊のマグネットを作製中です。

また、サポーターが着用するベストを作製しました。

■参加対象者

旭竜学区にお住まいの方であれば、どなたでも利用することができます。

■利用料金

基本料金として、サポーター1人につき所要時間30分まで250円。以後30分ごとに250円を追加。ただし、ごみ出しは1回につき100円。また、介護や介護保険に関する相談は無料になっています。

■ひと

- ・コーディネーター 4名
- ・サポーター 23名

■運営費

【収入】 区づくり推進事業補助金、連合町内会補助金、協賛金

【支出】 消耗品費、印刷製本費

■ネットワーク

旭竜学区連合町内会/旭竜地区社会福祉協議会/旭竜地区民生委員児童委員協議会/旭竜学区愛育委員会/旭竜学区老人クラブ連合会/旭竜学区体育協会/岡山市消防団宇野分団/ふれあい広場なかしま/いきいきひろば八幡/社会福祉法人昭友会/岡山市社会福祉協議会中区事務所/岡山市中区地域包括支援センター高島分室/岡山市中区保健センター/岡山市立高島公民館/岡山市ふれあい介護予防センター

■苦労した、苦労していること

庭木の高い枝を切ってほしいという要望がありますが、地上から作業できる範囲とし、脚立を使っている作業は行っていません。



■今後の課題について

現在23名のサポーターがいますが、支援希望者の増加に伴い、今後は30名を目標に増員が必要だと思っています。

活動を始めて半年以上経過しましたが、旭竜助け合い隊の活動を知らない人が多いのも現状です。

チラシの作成やマグネットの作製に加えて、今後は機関紙の発行を検討しています。また、活動上の課題を共有し解決していくために、コーディネーターとサポーターがお互いに共通認識を持っておく必要があります。そのため、両者が定期的に集まり意見交換が必要だと思っています。

■今後取り組もうとする方に伝えたいこと

サポーターの多くは、70歳以上の高齢者です。元気であれば、人の役に立ちたいと思って活動しています。助け合い隊の活動は高齢者の健康維持や生きがいづくりにつながります。

庭の草取りなどで、蜂に刺されることもあり、福祉サービス総合補償保険加入は必須です。

また、事業実施にあたっては、区づくり推進事業の申込を検討したらいいと思います。